

精華町教育委員会議事録

平成29年（第1回）

1 開 会 平成29年1月25日(水) 午前10時00分
閉 会 平成29年1月25日(水) 午前11時45分

2 出席委員 太田教育長 中谷委員 細川委員
松本委員 新司委員 (欠席委員なし)

3 欠席委員 なし

4 出席事務局職員

岩崎教育部長 北澤総括指導主事
竹島学校教育課長 仲村生涯学習課長
山崎学校教育課主幹

5 傍聴者 なし

6 議事の概要

(1) 開会

教育長から第1回教育委員会の開会を宣言。

(2) 前回議事録について

教育部長から平成28年第12回教育委員会及び平成29年第1回臨時教育委員会の議事録について説明。

【意見等】

・特になし

【採 決】

・全員承認

(3) 教育長報告事項

中学校における学習のあり方について、昨年の秋に学期制の在り方懇談会を設け、12月21日に第2回の懇談会を開催した。そこでは中学校の学期制を3学期制にすべきという認識で議論が一致した。2学期制を採用していたことの最大のメリットは授業時数の確保という点であったが、今後どう

していくのかを議論し、様々な意見が出た。9月1日から始まる秋の授業再開を前倒しにしてはという意見や、夏休みの開始を遅らせてはどうかといった意見、これまでの枠組みの中で工夫ができないかといった意見、土曜日をさらに活用してはどうかといった意見が出た。学校状況もよく聞いた上で、教育委員会の責任でこの件についてはまとめめさせてもらいたいとの事で一任頂いた。

これを受け、1月6日の校長会で協議を行った中では、夏休み終了期間の前倒しを行い、3日間程度、授業時数を確保するという意見でまとまった。

これらを踏まえ、1月19日に総務教育常任委員会で経過説明を行うと同時に、パブリックコメントを実施することとなった。

今後、総合教育会議で3学期制をテーマとして町長と協議し、教育委員会で決定する予定である。

【事務局から補足説明】

総括指導主事　これまでの経過について触れると、平成14年度に学校完全週5日制が導入され、授業時数の確保が非常に厳しい状況になった。この時点で全国的には2学期制という機運が高まり、本町においても平成16年度から中学校において実施することになった。その後、学校関係者による2学期制推進委員会を設置し、検証や改善を行うとともに、保護者を交えての在り方懇談会を実施してきた。多くの方々の意見を頂きながら現在に至っているというのがこれまでの経過である。前回の在り方懇談会を実施して6年が経過し、その間に全国的には空調設備が設置された地域が多く、夏にも授業ができる環境が整い、2学期制から3学期制に戻す動きが強まってきており、社会的な大きな変化が見られるようになってきた。

本町においても平成29年度に空調設備整備工事を行い、平成30年度から中学校において空調設備の稼働が可能となる。これにより授業時数を確保できる教育環境が整い、これまでの2学期制の最大のメリットであった授業時数の確保が3学期制に戻しても可能であるということとなった。

したがって、中学校では2学期制から3学期制への移行という事で考えている。理由としては、授業時数の確保や、これまで課題として上げられていた夏休み明けの定期考査、テストとテストの間隔が長過ぎるといった問題、通知表が年2回しか出ない等の課題が3学期制に戻すことにより解消されるということである。

パブリックコメントについては約1カ月間の募集を行い、意見をもとに再度まとめたあと、第3回目方懇談会を実施していきたいと考えている。それを経て総合教育会議、教育委員会という流れで決定していきたいと考えている。

【委員の意見等】

- 中 谷 委 員 パブリックコメント募集後、期間が短いがスケジュール的に可能であるのか。
- 総括指導主事 年度末までにそこまで持っていきたいと考えている。また、施行には周知期間を1年間設ける予定である。
- 中 谷 委 員 中学校の方は夏季休業期間を短縮してという話であるが、そのまま3学期制を続ける小学校ではその辺りの話は出ているのか。
- 総括指導主事 小学校の空調設備整備の関係もあるが、そこに関しては予算化までには至っていない。小・中学校同時に空調設備を整備し、同時に夏休みの3日前倒しを行えたら良いが、小学校に関しては議論が進んでいない。
- 教 育 部 長 総務教育常任委員会でも様々な意見、質疑があり、時間的にはもう少しあるので十分検討したい。
- 松 本 委 員 小学校の2学期開始を3日間早める事となると、給食をどうするかなど、様々な課題も考えていかなければならない。
- 太 田 教 育 長 平成32年度から学習指導要領が改訂になり、小学校でも5年、6年では外国語、3年、4年生に外国語活動が導入されれば授業時数が増加する事となる。そういった問題を絡めた議論が必要であろうと思っている。
- 中 谷 委 員 授業時数を計算したことがあるが、やはり学校ではインフルエンザでの学級閉鎖や気象警報による休校など突発的な事

象が発生する場合は予備時数で対応することとなるのだが、足りない場合は校時数を増加させるケースもあった。子どもにとって心身ともに負担にもなるので、それが本当に学力の充実に実質的な効果があるのかどうかという問題もある。

太田教育長 中学校2学期制を実施して5年経過した際に、在り方懇談会を開催した。そこで小学校の授業時数はどう確保できているのかという議論をしたことがある。当時は現行の枠内なら何とかやっていけるという結論で、その結論を踏まえ小学校は3学期制を維持してきたが、今度の指導要領改訂でさらに授業時数が増えるということになるため、やはり校時数増加となると子どもへの負担の問題もあるので、十分議論していきたい。

松本委員 今までも、夏の暑い中空調設備なしでできたわけであるが、汗をかきながら授業を受ける場合と、快適な環境で学習ができるのとでは条件が違いうだろう。小学校では授業時数を確保するために7時間目設定するという選択をするよりも、夏休みを早目に終わらせ、3日間でも4日間でも始業式を早めて授業を進めてもらうのがよい。近隣で空調設備を設置している所はそうように行っており、それが学校の先生にとっても、生徒児童にとっても一番妥当な選択だろうと思う。

新司委員 2学期制の成果、3学期制の課題があるが、3学期制に戻すとすればどのように保護者に理解を求めていくのか。

教育部長 この間、全国的にも状況が変化しており、その中でも2学期制の評価は評価としてある。また3学期制に戻すことで、その課題を解決した中で実践をしていくということも各自治体で出ているので、そういう事も参考にしながら、町としても在り方懇談会でまとめて頂いた上で、保護者の理解を得たい。

在り方懇談会での保護者からの意見としては、3学期制に戻してほしいということも意見として多数出ているので、その辺りについては、その課題検証を含め十分理解を得ることが出来るのではと思っている。

総括指導主事

2学期制の課題としては、その課題を検証しながら解決に向けて取り組んできた。例えばテストの範囲が広過ぎると子どもにとって負担が大きいこと、夏休み明けすぐに定期考査があるので、夏休みの宿題やテスト勉強に追われ充実した夏休みが過ごせないというようなことが課題としてあった。通知票も2学期制であれば2回しかないので、子どもや保護者にとって進路等を考える上で不足しているのではという問題もある。その解消のため学校では小テストを行うなど取り組んでいるものの、依然として課題も出されていた。3学期制に戻すこととなれば、その部分も解消されるだろうという事で、在り方懇談会でも意見が出ている。

細川委員

2学期制が導入され5年目の見直しの時期にちょうどPTAに関わっており、会議にも出席していた。保護者と小・中学校の先生が集まり問題点についてもう一回見直しをしようという事で話し合っていたが、当時2学期制のままで行こうという話になった一番の大きな要因として、3学期制よりも、きめ細やかな指導ができ、時間に関しても十分確保できるといった点であった。小学校は3学期制で、中学校では2学期制だと説明しづらいので何とか統一できないかといった意見もあったが、中学校の先生からは良い効果が出ているという話が大きかったので、このまま継続していくという話になったと記憶している。

問題点としては、例えば試験の回数が少ない事により、1回体調を崩して中間試験で良い点数がとれなかったときの負担が大き過ぎるといった意見、それが成績に反映してしまったらやり直しが利かないから改善できないかといった意見、あるいはクラブ活動に関して、活動時間が増えるのはいいが、大会の日程が3学期制のスケジュールで組まれており、試験前に試合が設定されているなどの負担があったので、不公平なのではという意見もあったが、最終的に5年目に関してはこのまま継続でという方向になったと思う。見直した後に継続の方向で決まったことに対して保護者の中で疑問視する声

はやはりあった。こう言った部分もあって今回見直しになったという経緯があるのかなと思う。

新 司 委 員 府内の中学校では2学期制をどれくらい実施していたのか。

太 田 教 育 長 当時から2学期制を実施したところは、京都市と八幡市と精華町などがあると聞いている。

細 川 委 員 3学期制に戻すとなった場合、今までとペースも違うし、授業の確保はもちろんであるが、先生方の負担増加が懸念される。既に現在でも遅くまで残業されており、負担が大きいと感じている所に、制度が変わることで体調を崩してしまう様な事が起きたりすれば問題である。

太 田 教 育 長 議会でもそういった心配の声が出ている。ただし、先生達の過重負担の問題というのは、学習に絡んでだけの問題ではない。現在、電通の問題が出ているが、文部科学省も例えば部活動のあり方を再検討しようという事で、前から言われている事ではあるが、改めてそういう話が出ており、別の角度からも教員の負担軽減の問題は考えていかなければいけないと思っている。

細 川 委 員 保護者に関しては、かなりスムーズに3学期制を受け入れる方向ではないかというのが、話を聞く中で感じている。

太 田 教 育 長 府立高等学校でも当時2学期制に移行する流れがあったが、今はほとんど戻っている。2学期制を採用している所はほとんど無いのではないか。

細 川 委 員 おそらく子どもが3学期制に戻るということに対して何も抵抗はないと思う。周りの学校と一緒にになるので、拒否する子はまずいないと思う。

(4) 事務局からの諸報告

学校教育課長 1 平成29年度予算の概要について(学校教育課所管分)

平成29年度予算について内示を受けたので、学校教育課所管の主な事業、施策等について教育大綱の5つの基本方針に沿って説明する。

1点目の基本方針「未来を生き抜く子どもの育成」について、川西小学校にコンピュータ機器の更新の予算が計上され

ている。学校と機器構成等についても調整し、導入を進めていきたいと考えている。財源については、この間、防衛省の交付金を活用している。

2点目の基本方針「学研都市を活かした教育の推進」について、この間、学研企業の支援を受け、学校への出前授業の開催等を行ってきている。特に予算的な部分はないが、引き続き開催していきたい。

また、28年度の町長の施政方針にもあった「科学のまちの子どもたち」プロジェクトについても、町長部局と連携した取り組みを引き続き行っていく予定である。

3点目の基本方針「家庭・地域社会の教育力の向上」については、精華中学校で先進的に取り組んできているコミュニティ・スクールの推進についても、コーディネーターの配置の予算を確保できたので、さらなる充実に向けた取り組みを引き続き実施できると考えている。

4点目の基本方針「命を守り、人権を大切にする共生社会づくり」については、各学校で特別支援学級に通う子どもの増加、特別支援学級に属さない普通学級にいる発達障害等の子どもの増加に伴い、フォローの必要性があるとの事で、支援員や介助員等、子どもたちへきめ細やかな支援をする指導員の配置を行っているところである。これについても、他市町村に比べてかなり充実した予算を確保し配置を行っており、29年度においても引き続き配置充実、学校の教育の充実に努めていきたい。

いじめ問題等の対応としてはスクールカウンセラーの配置、保護者負担の軽減という面からは修学旅行や通学費、私立幼稚園の就園奨励や幼稚園の補助金、これらの保護者負担の軽減策についても引き続き実施していく予定である。厳しい町財政であり、近隣の市町ではこのような補助金についても整理統合されて廃止されている所がある中、精華町においては、継続している状況である。

5点目の方針である「教育の質を高める環境の整備」につ

いて、先ほどの学期制にも関連するが、12月補正で3中学校への空調設備の設置工事費が補正計上された。実質的にはこれについては翌年度へ繰り越すという形になるので、29年度で3中学校への空調設備の設置工事を実施し、30年度を目途に中学校については稼働できるようにと考えている。

あわせて、間断なく小学校にも空調設備を設置できるよう、全力で財源確保に努めていきたいと考えている。

中学校給食の実施に向けた取り組みでは、28年度に町民の皆様へ食育や給食の充実などについてアンケート調査を予定している。それを踏まえ、29年度については基本構想の策定業務を進めるための予算計上を行った。

最後に、心配いただいている教職員の負担軽減の課題については、今年度から改めて教職員向けの安全衛生委員会を開催し、充実に向けて取り組みを進めている。29年度においても産業医の協力の下、引き続き先生方の健康管理や良好な職場環境の整備について進めていきたいと考えている。

生涯学習課長 1 平成29年度予算の概要について（生涯学習課所管分）

社会教育においては、特に子どもを中心にした事業、大人お年寄りまで含めた事業を大きな柱としており、子どもに対しては、学校支援及び各小学校におけるまなび教室、大人やお年寄りに対しては、寿大学や女性講座などがある。こういった事業について、額の増減は若干あるが、同様の実施となる。

もう一つの柱である文化財保護行政については、今年度から新たに文化財を電子化したデジタルミュージアムの取り組みが始まっている。その取り組みが本格化していく中で、民具を中心とした展示を行っているところであるが、今後「せいか歴史物語」や町内文化財、町が指定している文化財の紹介などの取り組みを今後更新していきたいと、従来通りの予算をいただいた。企画調整課主管のシティプロモーションという地方創生に係る費用を活用しながら行う事業であるので、

予算的な大きな変化はない。

埋蔵文化財に関しても、若干の調査はあるが、町が所有している所での大きな開発はないので、従来どおりの予算計上を予定している。

社会体育について、ソフト面に関しては、体育協会を中心とした生涯スポーツの支援が中心に、去年より始まったツアー・オブ・ジャパンや各種スポーツ教室の支援等があるが、従来どおりの予算を計上している。

ハード面に関しては、今年度totoの助成金を用い、打越台テニスコートの照明工事を行った、この1月末でほぼ完了し2月から本格稼働するとの事であり、ようやく整備ができた事を非常に有り難く思っている。来年度においては、大きな事業の予定はないが、むくのきセンターやグラウンド、テニスコート等の体育施設において、かなり経年劣化している部分があるので、細かな修繕等について予算計上している。

むくのきセンターにおいては、消防法が改正されたことによる防火区画の設計費用を計上した。

図書館について、29年度においても引き続き子どもの読書活動推進に力を入れて取り組んで行きたい。図書の実質や日常の管理運営にかかる費用等においても、例年どおりの予算を計上している。

総括指導主事 1 生徒指導報告について

(1) 小学校

「器物損壊」について1件報告あり。不登校については8名であった。11月の13名より少し減少した。

(2) 中学校

「生徒間暴力」が1件、「喫煙」が1件、「その他」が1件であった。不登校については26名である。参考までに、11月は28名、10月は25名であった。学校と家庭の連携を密にし、進めている。

総括指導主事 2 いじめのアンケート集計結果について

年3回のうちの第2回目、9月から12月末までのいじめ

の集計を行った。

(1) 小学校について

第1段階の認知件数は300数件であった。うち未解消については、男子が1名、女子が2名である。基本的にはそれぞれへのアンケート、担任及び学年教師が見て判断してカウントしており、そういった事が上がってきたらすぐに相談や指導したり等取り組んでいる。第2段階で男子が1名、女子が3名の計4名との事であった。このうち解消したものが女子1名であり、未解消は、男子が1名、女子が2名である。今後も継続的な指導を行っていかねばならないとの事である。

(2) 中学校について

第1段階の認知件数は30件であった。そのうち、解消したのが30件であった為、第2段階、第3段階は0件であった。

総括指導主事 3 指導の重点について

まず初めに、指導の重点については「学校教育」と「社会教育」に分かれており、平成28年の2月に教育大綱が策定され、5つの基本方針が教育大綱に示された。それに沿う形で学校教育・社会教育指導の重点も整理を行っている。

今年度も一部修正を行っているが、次回教育委員会で提案したいのでよろしく願いたい。

総括指導主事 4 キャリア教育推進フォーラムについて

1月21日(土)、144名が参加するなか、キャリア教育推進フォーラムを開催した。

参加者向けに実施したアンケートでは、小学校におけるキャリア教育の取り組みについての感想で、「自己肯定感を高めるような教育を行っている事をうれしく思う」等といった意見があった。また、生徒による職場体験実践発表についての感想では、「原稿を見ずに聞き取りやすい声の大きさや話すスピードで発表されていて、非常によかった」、「どの学校の発表もわかりやすく話し方もしっかりしていて、すばら

しかった」、「精華西中学校の最後の挨拶はすばらしかった。精華中学校の分析はなるほどという風を感じた。精華南中学校の統計に基づくまとめもよかった。」といった意見が集まった。

シンポジウムについても、さまざまな年代、立場の人たちが関わり、様々な気づき・学びが得られていることを知り、有意義な時間であったとの意見もあった。

図書館前の展示発表に関しては、「デジタルの技術が向上し、対応する能力を身につけることも大切だが、昔ながらの壁新聞でわかりやすく伝えるのも忘れるべきではないし、表現方法としてこれからも取り組んでほしい」という意見、またフォーラム全体を通して「教室で学ぶこと以上の、人間として大切な勉強をこの職場体験を通じて学んでいることを知り、今後も充実して取り組んでほしい」といった意見もあった。

学校教育課長 2 インフルエンザウイルスの流行について

各学校でインフルエンザによる欠席者が増えており、1月23日（月）に3校で学級閉鎖、学年閉鎖を実施した。各学校に対して、手洗いうがいの励行なり、学校教育課からも注意喚起を行っている。罹患している教師もあり、注意が必要である。

学校教育課長 3 給食の大型備品購入について

防衛省の交付金を活用し、スチームコンベクションオーブンを山田荘小学校と東光小学校に導入した。ようやく使える見通しがつき、2月と3月の献立では新しい機器を使った焼き物の給食を提供する予定である。来年度についても活用し、充実した献立の学校給食の充実に努めていきたい。

生涯学習課長 2 成人式の実施について

1月9日に成人式を実施し、無事終わることが出来た。450名中360名の参加があった。近隣と比べ非常に参加率が高く、来年度においても成人の日に実施したいと思う。

生涯学習課長 3 親子のふれあいコンサートについて

1月22日（日）、親子のふれあいコンサートが実施され、参加者は約870名とほぼ満席であった。今年はオオサカ・シオン・ウインド・オーケストラが来ていたことも影響したのか非常に参加者数が多かった。

生涯学習課長 4 少年の主張大会について

2月19日（日）、青少年健全育成協議会の第24回相楽少年の主張大会を今年度は南山城村のやまなみホールにて13時半から実施する予定である。精華町からは小学生1名、中学生1名が発表することとなっている。

生涯学習課長 5 第10回ドッジビー大会について

小学校低学年の部、高学年の部に分かれ、ドッジビーと言うドッジボールをフリスビーで行う競技を3月5日（日）に開催する。参加チームは、当初と比べ子どもの数が減っており、最大10チーム程度である。

生涯学習課長 6 文化財保護審議会の開催について

2月23日（木）に文化財保護審議会を開催する予定である。ここ10数年においては、新たな文化財等が出てきていないため暫く開催していなかった。今回、デジタルミュージアムの取り組みや、29年度に精華町で日本遺産サミットが開催されることもあり、文化財保護行政の取り組み状況について審議委員に報告を行い、今後の取り組みについての意見を求めたいため開催する予定である。

生涯学習課長 7 文化賞・スポーツ賞の選考委員の選出について

例年、年度末になると文化賞・スポーツ賞の選考会を実施している。従来の旧教育委員会制度であれば、教育委員長が選考委員として参加していたが、新教育委員会制度に改正したので、伊藤委員長が抜けられた後、教育長を含むもう1人の委員の出席が必要なので、この場をもって選出をお願いしたい。

（協議の結果、中谷委員を選出）

【委員の意見等】

新 司 委 員 キャリア教育推進フォーラムに関して、それぞれの学校の特

色、発表の仕方や、生徒自身が本当に人に伝えるということ
を、しっかり整理し発表できる力のある中学生に育っている
事に感心した。ロビーに展示されていた発表については、読
んでいて楽しいものや、見やすいものを子どもたちが工夫し
ていたのもので、より多くの人の目に触れてもらえたら良かった
かなと思う。

松本委員 29年度予算に関連して、精華中学校のコミュニティ・スク
ールの取り組みということで、学期に1回、土曜日を活用し
てコーディネーターも配置されているが、どういった内容な
のか。

総括指導主事 基本的には学校運営協議会を設置し、その中に組織される委
員がおり、校長が学校経営方針を提案し、委員が承認する流
れがコミュニティ・スクールの中核の部分である。それに付
随し、シニアスクールという取り組みを行ったり、学校で収
穫した野菜等を使ってカレーライスを振る舞ったりする収穫
祭を行ったり、地域に配布するカレンダーを作成したり、こ
ういった学校行事等を含めた取り組みを行っており、これら
を総合してコミュニティ・スクールとしている。その事務的
な仕事をしているのがコーディネーターである。この経費に
ついては、国負担3分の1、町負担3分の2となっている。

太田教育長 学校を地域で支えていくという考え方の下、文部科学省から
コミュニティ・スクールを広げていくようにという指導が入
っている。立ち上げて10年近くなるが、全国的に広がって
きている。最近は落ちついているようであるが、精華中学校
では長い間生徒指導の面でいろいろな課題を抱えていた。子
どもたちの健全な育成のために地域の力を借りられないか
ということのいろいろ模索していたところ、こういった制度が
あったので導入した。

様々な事業の中の1つとしてシニアスクールがある。精華
中学校の空き教室を利用し、地域の方々に呼びかけ、花を植
える講座や合唱の講座等のいろいろな講座を開き、参加者を
募った。来た人たちが子どもたちと一緒に登校したり、その

成果を発表したり、子ども達の文化発表会の際は、そのシニアスクールの生徒さんも一緒に参加いただいていた。それが精華中学校の安定に非常に貢献し、成果となり現在根付いている。

中谷委員 いじめのアンケート調査結果について、保管年数の取り決めはあるのか。

総括指導主事 保管年数については指示をしておらず、アンケートに関しては、京都府の様式を使用して実施しているが、府からの指示もない。中学校は長期間保管しているようで、小学校についてもその流れで保管を行っているようである。現在特に指示はしておらず、今後必要になるかと思う。

細川委員 成人式は多くの参加があり非常によかった。また保護者の方も今年はたくさん来場されており、参加して良かったといった声が多かったと思う。始まりの部分で騒がしい中歌われていたのが残念であった。

細川委員 キャリア教育推進教育フォーラムも盛況で、参加された方からは、もっと大きいところで多くの人に見せたいといった意見もあった。10年を機に、今後また考えてもらえればと思う。

(6) 後援関係

12月から1月に受け付けた教育委員会後援事業の報告は、総数3件、学校教育課関係は0件、生涯学習課関係が3件、うち社会教育係関係が3件、図書係は0件、社会体育係関係は0件。

(7) 2月の行事予定

(8) 閉会

教育長が第1回教育委員会の閉会を宣言。